

<28年度事業報告> 法人全体の運営と事業

項 目	「第11回通常社員総会」開催
内 容	2015(平成27)年度の事業報告、決算報告、会費報告、2016(平成28)年度の事業計画、収支予算、役員改選等の報告を行いました。
概 要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 15:00～16:45 【会場】 しいの実シアター

項 目	理事会開催 年間 9回開催
概 要	第85回 4月16日(土) 平成27年度決算報告の件 第86回 5月12日(木) 平成27年度事業報告、決算報告の件、年度会費報告の件 平成28年度事業計画、事業予算案の件 第87回 7月13日(水) 就業規則の変更の件、倉庫借用の件、土地の購入の件 第88回 8月11日(木) IATA世界大会誘致の件、業務分担と人員配置の件 第89回 8月31日(水) 資金借入の件、 第90回 9月24日(土) 第6回八雲国際演劇祭開催の件 第91回 11月 4日(金) 決算見込に伴う雇用について かやぶき交流館指定管理について 第92回 12月27日(火) 第6回のための第5回ふりかえりおよび、第6回制作準備スケジュールの件 創立50周年記念パーティ開催の件、総会のあり方の件 第93回 3月17日(金) 平成28年度決算見込と会計状況

項 目	会員親睦交流会の開催
内 容	総会に引き続き、会員手作り料理で会員親睦交流会を開催しました。
概 要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 17:00～19:00 【会場】 かやぶき交流館

項 目	やくもネット事務局とポータルサイトの運営
内 容	やくもネットの事務局として、八雲町内各団体の運営を支える活動を行いました。 また、八雲町の情報発信ツール「ようこそ八雲へ」を5年ぶりにリニューアルしました。情報の発信も担当しています。

項 目	島根演劇ネット事務局
内 容	島根演劇ネットの事務局として、運営を支える活動を行いました。 島根文化団体連合会の加盟団体として、「次世代育成事業」の事務局も行いました。 また、「運行氏のワークショップリーダー養成講座」を企画し、島根県内のワークショップ指導者養成に努めました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
会議	地域おこし協力隊との意見交換会	H28/6/13	八雲公民館 星上山	2名	—
研修	しいの実シアターを活用した観光商品 造成体験会(松江市観光協会と連携)	H28/6/19	しいの実シアター	5名	13名
講演	JALまねくにびき女性部 「演劇に学ぶ」	H28/8/8	しいの実シアター	5名	30名
受入 研修	インターンシップ生3名(夏2名、春1名)	H28/8/15~20 H29/3/2~6	しいの実シアター かやぶき交流館	3名	3名
受入 研修	島根県職員NPO研修	H28/8/10~ 12/11	しいの実シアター かやぶき交流館	1名	—
受入 研修	松江市職員NPO研修	H28/10/6~ 12/11	しいの実シアター かやぶき交流館	2名	—
視察	地球市民賞ワークショップ2016伊南砺	H28/8/27.28	富山県南砺市	1名	—
講師	劇場音楽等におけるオリンピック・ パラリンピック文化プログラムを考える	H28/9/13	東京ウィメンズクラブ	1名	200名
研修	アートマネージメント人材育成講座 出雲未来図活性化事業	H28/9/22	出雲ビックハート	3名	—
講師	JALまねくにびき地区本部 サンサン女子大第4期卒業式	H28/9/23	松江 エクセルホテル東急	1名	約20名
講師	アートマネージメント人材育成講座	H28/9/25	滋賀県文化産業交流会館	1名	12名
会議	平成28年度共創・協働研修会	H28/10/12	松江市市民活動センター	1名	—
朗読 指導	第2回南城市市民ミュージカル 朗読ワークショップ	H28/10/23	沖縄・南城市 シュガーホール	1名	32名
会議	松江NPOネットワーク 第6期総会	H28/11/29	松江市市民活動センター	1名	—
視察	学校法人きのくに子どもの村学園	H28/12/1	和歌山県橋本市	2名	—
視察	森のようちえん まるたんぼう	H28/12/6	鳥取県智頭町	3名	—
PR	聴覚障がい者情報センター	H28/12/8	松江市いきいきプラザ内	2名	—
研修	演出者のつどい2016	H28/12/21	東京都 座・高円寺	2名	—
PR	山陰インバウンド機構	H29/1/31	米子市 インバウンド機構事務所	2名	—
研修	松江市NPO派遣研修の報告会	H29/2/2	松江市役所 人事課	1名	—
研修	不当要求防止責任者講習	H29/2/16	松江市市役所総務課	1名	—
会議	中国ろうきんNPO寄附システム 2016贈呈式	H29/2/17	松江市 労働会館	1名	—
講師	公文協アートマネジメント研修会2017	H29/2/8~10	国立オリンピックセンター	2名	270名
研修	公文協アートマネジメント研修会2017	H29/2/8~10	国立オリンピックセンター	2名	2名
研修	労働契約等解説セミナー2016	H29/3/10	松江テルサ4F会議室	1名	—

<28年度事業報告> 表現・コミュニケーション能力育成事業

平成28度は、合計119回、のべ3,766名の方にワークショップを提供しました。

① 学校		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	島根県立大学保育学科単発ワーク	H28/4/9	県立大学体育館 アリーナ下教室	2名	57名
講師	島根県立大学選択科目 表現とコミュニケーション(前期講座) (計13回)	H28/4/11,18,25 H28/5/2,9,16,23,30 H28/6/6,13,20,27 H28/7/4	県立大学体育館 アリーナ	延べ 29名	延べ 300名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 松江市立八雲小学校 1年×3組、2年×2組、3年×2組 各3回(計21回)	H28/6/9、10、16 H28/10/6、19、20 H28/11/9、10、17	松江市立 八雲小学校	延べ 42名	延べ 612名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 大田市立久手小学校 2年、3年、ひまわり学級×3回(計9回)	H28/7/2 H28/10/31 H28/12/8	大田市立 久手小学校	延べ 18名	延べ 282名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 邑南町立市木小学校 全学年×2回	H28/7/6 H28/9/6	邑南町立 市木小学校	延べ 2名	62名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 飯南町立頼原中学校 1学年×2回	H28/6/9 H28/9/29	飯南町立 頼原中学校	延べ 2名	延べ 28名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 安来市立南小学校 全学年×3回 (計9回)	H28/7/15 H28/9/21 H28/11/25	安来市立南小学校	延べ 6名	延べ 264名
講師	文化庁「次代を担う子どもの文化芸術 体験事業」芸術家派遣事業 松江市立八束学園(八束小学校) 3、4、5、6年生 5クラス各2回(計10回)	H28/6/22 H28/7/1、14 H28/10/28 H28/11/11、22	松江市立八束学園 (八束小学校)	延べ 20名	延べ 278名
講師	島根県「文化芸術次世代育成支援事業」 出雲市立高松小学校 6年生3クラス×3回 5年生3クラス×3回 4年生3クラス×3回 (計27回)	H28/6/12、14、30 H28/9/07、13 H28/10/04、07 H28/11/16、18	高松小学校内	延べ 54名	延べ 903名
講師	島根大学国際交流センター (島根県グローバル人材育成支援事業)	H28/7/9	島根県立青少年の家 サンレイク	3名	20名
講師	島根県グローバル人材育成支援事業の ふりかえり会	H28/7/20	島根大学総合理工学部	3名	5名
研修	「大学と地域社会を結ぶ大学間連携ソ ーシャルラーニング」総括シンポジウム	H28/12/17	島根大学ホール	2名	—

②企業、地域、PTA、その他		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	尚風館 「コミュニケーションタイム」、 ペープサート指導	H28/5/28 H29/2/18	松江歴史館 指南所	延べ 2名	34名
講師	まつえ市民大学 芸術文化・音楽コース 舞台稽古に潜入！ <歌唱指導>	H28/5/29	松江市 しいの実シアター	2名	42名
講師	まつえ市民大学 ふるさと発見コース コミュニケーションワークショップ	H28/5/31	松江市 スティックビル	2名	43名
講師	どんぐり館 ファミリーサークル(土曜)	H28/6/25	どんぐり館あそび室	1名	17名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 東部研修(計2回)	H28/7/16 H28/11/26	松江市 しいの実シアター・ かやぶき交流館	延べ 6名	延べ 106名
講師	島根県社会福祉協議会 「保育士採用2～5年目研修」 西部研修(計2回)	H28/7/02 H28/11/12	浜田市 いわみ～る	延べ 3名	延べ 70名
講師	島根県看護協会 「助産師職能新人研修」	H28/8/26	島根県看護 研修センター	1名	23名
講師	斐川東中学校新任職員研修ワーク	H28/8/8	しいの実シアター	2名	9名
講師	どんぐり館 星キラ事業(在宅母子)	H28/10/26 H28/12/02	どんぐり館 あそび室	延べ 4名	延べ 68名
講師	松江市立八雲幼稚園	H28/12/5、7、12	八雲幼稚園遊戯室	延べ 3名	延べ 33名
講師	八雲公民館 青少年活動ワークショップ	H28/12/25	八雲公民館会議室	2名	40名
講師	八雲学童クラブ	H28/12/28 H29/1/5	どんぐり館 2F	1名	76名
講師	プロジェクトゆうあい 障害児学童保育ワーク グループ分けして(2回)	H29/1/6	しいの実シアター	2名	39名
講師	国際ロータリー第2690地区 第3.4.5グループ合同 ワークショップ	H29/2/19	ホテル一畑	2名	300名
講師	島根公民館 青少年活動ワークショップ	H29/3/4	サンレイク	2名	55名

実施回数119回 従事者数延べ218名 受益者数延べ3,766名

ワークショップを受けた学校からの感想

<出雲市立高松小学校>

今年担任した3年生の子どもたちは「表現育成ワークショップ」の場で、劇団の有田さんと岡田さんとの出会いに恵まれました。おかげ様で今ひとつ自分を表にだすことに慣れていなかった子どもたちが今は本当にのびのびと表現できるようになりました。

学習発表会が近づき、子どもたちは両手に鳴子を持って「よさこい」練習に一生懸命です。すばらしい出会いに心から感謝申し上げます。本当は、(セロ弾きのゴーシュ公演の)本番当日にお邪魔したかったのですが、(本番前日の)ゲネプロに来させていただきました。真剣な稽古の場に引き込まれました。来てよかったです。時を忘れて心から楽しみました。「演劇は生き物……」ありがとうございました。

(2016.11.5 「セロ弾きのゴーシュ」ゲネプロ公開日のアンケートから)

<松江市立八束学園の学園長先生から>

教職員は異動があるため、子どもたちの成長を継続的に見まもることができない。その現場にあつて、継続してワークショップ指導をしてもらい、子どもたちの成長を見てもらえることは何とありがたいことか。感謝申し上げます。(継続4年目)

<松江市立八雲小学校の先生から>

学校は、決まったことを決まったように毎日行っているところなので、このようなワークショップで自由に放たれた空間と時間の中で、授業の中では見せない子どもの内面が浮き彫りになる気がします。その姿から、日頃の指導の足りない部分や配慮すべきことを学ぶことが出来ました。

「できないこと」をすべて受け入れてもらえる安心感の中で、子どもたちは居場所をみつけることができました。

3回の中で、1.2回目は様子を見ていた子も、やっと3回目に安心して参加していたように感じます。やはり、3回は必要だと思います。

<28年度事業報告> しいの実シアターの管理・運営事業

しいの実シアターの具体的な運営方針

- ①親しみやすくクオリティの高い作品を創造・発信していく。
- ②企画制作、運営、創造発信等のスキルを高めるため専門的人材を養成・確保する。
- ③劇場における演劇の普及啓発を推進すると共に、学校等での公演も行う。
- ④他劇場・芸術団体、学校・大学、地域等との連携・協力を進め、社会課題に対応していく。
- ⑤国際的なフェスティバル開催等により、国内外の人たちが出会い文化交流できる取組を行う。
- ⑥利用者のニーズ等を把握・分析して事業の充実を図り経営の安定化を目指す。
- ⑦劇場が安全かつ快適な施設として維持されるよう努める。

28年度の主な活動内容

1. 「劇場法」に基づいて、全国トップクラスの運営を継続

平成24年に施行された「劇場・音楽堂等活性化に関する法律」と、25年に出された「劇場・音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針」によって、劇場を設置し、又は運営する者の役割が詳細に定められた。

2つの法律に貫かれている精神は、「社会包摂」の視点を持って運営することである。つまり、劇場・音楽堂等は演劇や音楽を創り、上演し、観客を増やすだけの場ではなく、人口減、少子化、障がい者、在日外国人、国際交流等にも対応すること、また子育て・教育・観光等の社会の諸問題に向き合って解決の一助となる場であることが求められている。

当シアターでは、「社会包摂」の精神は建設以来の実績があり、そのため、文化庁からは「小さくてもキラリと光る劇場」として高く評価されている。

平成28年9月13日には、全国から5つの劇場が選ばれて、文化庁委託事業「劇場音楽堂等基盤整備事業・情報フォーラム」で「東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムを考える」の事例発表を行った。

また、29年2月には、全国公立文化施設協会が主催（文化庁委託事業）し、全国の劇場職員900人を対象に開催された「全国劇場・音楽堂等アートマネジメント研修会2017」（東京）で、「アウトリーチ活動を先進的に行い継続している劇場の事例」に講師として招かれ、18年間の活動を発信した。こういった事例は、北海道・旭川の大雪クリスタルホール音楽堂と、松江のしいの実シアターの2劇場のみの先駆的な取組であることがわかった。

2. 公演、人材養成、普及啓発の3本柱で活発な事業展開を行った

「劇場法」では、公演事業、人材養成事業、普及啓発事業の3事業を実施することが求められている。 28年度の事業成果は次のとおり。

<公演事業1>

事業名	あしづえ創立 50 周年記念公演 「ゼロ弾きのゴーシュ」	分野	演劇
		創作種別	新演出
助 成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業		
趣旨・目的	過去 23 年間に 150 回上演し、3 万人が観劇した「ゼロ弾きのゴーシュ」は、27 年度には、舞台装置を無くし、衣装、照明等を変え、身体表現、エア楽器演奏等についてもスキルアップし、いわゆる具象から抽象にむかう新演出で上演した。宮沢賢治作品の舞台化は非常に難しいが、新演出で作品全体が大変わかりやすくなり、演劇愛好家はもとより、初めて劇場へ来たという人まで幅広い観客に感動してもらうことができた。そのため、あしづえ創立 50 周年を記念して、再度「ゴーシュ」を練り上げ、「しいの実シアター」の宝に育てていく。		
開催日時	平成 28 年 9 月 18 日、10 月 2 日、16 日、11 月 6 日（全 8 回）		
開催会場	しいの実シアター		
上演時間	60分		
主なスタッフ	【演 出】園山土筆【衣装】八幡垣睦子、八幡垣志保【英語台本】八木謙人 【身体表現指導】清水きよし【人形操作指導】永野むつみ【音響操作】前村晴奈		
主な出演者	(専属俳優) 有田美由樹、松浦優海、中村千恵子、原敬彦、門脇礼子、伊達生、上田郁子 (地元俳優) 原田雅史、豊田美智子		
ボランティア数	延べ248名		
入場料	一般（30歳以上） 前売2,000円(当日2,500円) U30（29歳以下） 前売1,000円(当日1,500円) グループ割引(一般 3 人以上) 1,500 円(当日 なし)		
入場者数	815名（入場者率98.0%）		
稽古公開 ゲネプロ公開	稽古公開参加者数 7名 ゲネプロ公開参加者数 113名		
成 果	①あしづえ創立 50 周年記念にふさわしい作品となり、更なる可能性が生まれて、当初のねらいであった「しいの実シアター」の宝に近づいてきた。 ②衣装作家の八幡垣睦子・志保氏に依頼し、衣装を全て創り直して海外の観客にも通用するものにするという目標を持っていたが、国内の観客だけでなくカナダの俳優 6 名からは、衣装は美しく品位があって素晴らしい、との評価を得た。 ③パントマイムの清水きよし氏から動物役を中心に俳優それぞれが自分の体と向き合って稽古を重ねた。人形操作指導の永野むつみ氏から子ねずみの動きを微細に学ぶことが出来た。 ④日本語と英語の混合台本を作成して上演し、在住外国人に稽古・本番に立ち会ってもらい、発音についてアドバイスを受け、カナダ俳優からも評価を得た。 ⑤俳優の呼吸技術を高めて、劇中歌の表現力を高めることができた。		
課 題	・広報PRに力を入れるため、今後は松江市広報で、しいの実シアターの催事スペースを確保したい。		

<公演事業2>

事業名	森の小さな演劇祭2016		分野	演劇
助成・連携	【助成】文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業 【連携】鳥取県米子市・中海カナダ協会、兵庫県豊岡市・豊岡市民プラザ			
趣旨・目的	「第5回八雲国際演劇祭」は、大きな飛躍を遂げた。一方で更に改善すべき点も明確になり、27年度と28年度はミニ版として「森の小さな演劇祭」を開催し改善に努め、29年度の演劇祭を迎えたい。特に、島根県や山陰インバウンド機構等に対して広報し、「観光」とつなげることはできないか、を模索・提案していく。			
実施期間	平成28年9月15日(木)～19日(月・祝)			
会場	しいの実シアター、平原会館、かやぶき交流館			
入場料	大人(19歳以上)1,500円～2,000円 子ども(18歳以下)500円～1,000円 誰でも300円※作品による			
入場・参加者数	参加者数 2,509名 観客数 1,176名 ボランティア数 延べ 180名			
主なスタッフ	【芸術監督】園山土筆 【照明】黒田徹 【音響】前村晴奈			
上演	日本	人形劇団ひぼぼたあむ	「かえるくんかえるくん」	
	日本	あしぶえ	「ゼロ弾きのゴーシュ」	
	日本	くらしき作陽大学子ども教育学部 附属児童文化部ぱれっと	わらべうたと人形劇「おすわりくまちゃん」	
	日本	野津真亮・灘尾彩	「チェロのデュオコンサート」	
	日本	永野むつみ	講演「今こそ芸術の力を人育てに」	
	カナダ	コーパス	「ひつじ」	
	日本	よしとtukuru さと原人	よしとの紙芝居tukuru さと原人のバルーンアート・パフォーマンスショー	
成果	<p>①3年に1度の演劇祭と異なり、小さな演劇祭におけるフェスティバル・クルーは、時間的余裕もあって楽しい活動となり、リーダークラスの学びを高めることとなった。また、新人クルーの育成も図ることができた。</p> <p>②インターネットとSNSの利用展開の「いろは」をスタートさせることができた。</p> <p>③カナダ・コーパス6名の俳優からは、「ゴーシュ」の英語表現と発声について高い評価を得て、内容も大きく飛躍したとの感想を得た。</p> <p>④中海カナダ協会と共催連携して、「ひつじ」を上演し大好評を得た。豊岡市民プラザと連携して渡航費の按分による経費節減が実現できた。</p> <p>⑤平原会館は、子ども用の演劇祭会場に最適であることが明らかになったため、29年度開催の演劇祭では、子どものための劇場とすることにした。</p>			
課題	今回も松江市内の幼保・小学校の全生徒にチラシを配付したが、演劇祭への興味・関心はまだ育っておらず、観客数にはつながらなかった。			

<人材養成事業1>

事業名	しいの実シアター未来学校(初年度)
助 成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>「未来学校」開校に向けて準備を進めてきたが、いよいよ28年度から実施する。自然豊かな当地域でも、子どもたちが外で遊ぶことは無くなった。それに伴って、動物や植物の変化や育ち方への観察眼や感性なども育成されなくなった。また、学校によっては、演劇上演しても理解が浅いため、演劇鑑賞以前の心の耕しが必要になってきた。子どもたちは、イエス・ノーを明確にせず自分の立ち位置を確保して同調することで自分を守っている。加えて、携帯・スマホ等の影響か絵文字で感情を表現するため極端に語彙が減っている。こうした子どもたちに対して、「芸術体験」と「暮らし体験」によって、好奇心や興味・関心、コミュニケーション力、表現力、多文化理解などを育て、将来、自立した社会人として生きていくことができるように育成する。</p>
概 要	<p>【実施日時】平成28年8月17日(水)～19日(金)3日間 【実施場所】しいの実シアター、かやぶき交流館 【受講者数】小学2年生から6年生まで9名 参加費 5,000円 【上演作品】人形劇団ひぽぽたあむ「ふたりのお話」 【出演者】永野むつみ、大澤直、松原由利子 【スタッフ】佐々木紀一 【人形操作指導】人形劇団ひぽぽたあむ 代表 永野むつみ 【コミュニケーションワーク講師】有田美由樹 【カリキュラム】「芸術体験」と「暮らし体験」の2本立て 【担当した劇場スタッフ】延べ33名</p>
成 果	<p>①最初、硬い表情だった子どもたちは、コミュニケーションワークで一気に緊張がほぐれた。「芸術体験」では、「ふたりのお話」を集中して楽しむことができた。人形を動かす体験で5～6年生の男の子たちがどのくらい興味を持ってくれるのかと心配だったが、休憩なしでみっちり2時間以上練習するほどの集中力だった。そして、人形は手で動かすのではなく、体全体で動かすことを学んでいた。人形操作は自分が稽古しているときは見えないため、人が稽古しているときに観客席で観て学びとっていた。やって学び、観察して学ぶ、という芸術体験の良さが会得できたようだ。「暮らし体験」では、子どもたちだけで、自主的にプランを立てて昼食づくりに励んだ。スタッフは必要なときだけ最少のアドバイスを行うという学びもあった。</p> <p>②未来学校初年度としては、出来すぎるほどの成果をあげたと実感している。参加した子どもたちだけでなく、保護者からも感謝と喜びの声が届いた。スタッフ側も高校生サポーター、インターン生、劇場スタッフの全員が口々に「実施して良かった。来年もぜひ成功させたい」との感想を述べた。今後、毎年実施することで、様々な波及効果も生まれるだろう。</p>
課 題	<p>受講者数に対して、多くのスタッフが必要であることがわかった。今後、このスタッフ数の削減を図って経費を抑える必要がある。</p>

<人材養成事業2>

事業名	第4回ワークショップリーダー養成講座
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
目的	<p>平成 25 年～27 年に、高尾隆氏（東京学芸大学准教授）を迎えて、「ワークショップ指導者養成講座」を実施したところ、中学、大学の教員、企業カウンセラー、他劇団員など異業種の人たちが参加して年を重ねるごとに学びも高まり、大変好評であった。</p> <p>高尾氏による講座を3年間実施し、大きな成果を挙げた後は蓮行氏を講師に迎えて、新たな講座を開催し、幅広いスキルを持ったワークショップ指導者を育成する。今、子どもたちの日々の暮らしの中でインターネット弊害が顕著に表れており、コミュニケーション能力の低下は避けられないほど事態は深刻化している。こういった時代の中で子どもたち自身が、何が必要で何が必要でないかを見分ける力をつけていくことは大変重要なことである。蓮行氏は、才能と豊富な経験によって効果的な講座をされている。</p>
概要	<p>【実施日時】平成 29 年 1 月 21 日（土）18 時～21 時 22 日（日）10 時～15 時</p> <p>【実施場所】しいの実シアター</p> <p>【受講者数】延べ 18 名</p> <p>【受講料】2 日間通し 4,000 円 21 日のみ 2,000 円 22 日のみ 3,000 円</p> <p>【講師】蓮行氏</p> <p>大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師、劇団衛星代表。演劇の社会教育に着目し、未就学児から社会人まで幅広い人を対象に、多くの演劇ワークショップを手掛ける。専門は演劇、演劇教育、文化政策。</p> <p>【カリキュラム】レベル、経験値に個人差があるため、各自に合った指導を行う。</p>
成果	<p>①今までの講師である高尾氏の講座は、できるだけ身体を動かして実際に即興でやってみる、という特徴があったが、蓮行氏の講座は、理論を中心に進めていくワークで、様々な新しい学びがあった。</p> <p>②ワークショップを、プログラム作成～実施～効果測定～制度化まで広く捉え、総合的にデザインすることについての学びを得られたことは大変大きな成果である。早速、今後のコミュニケーションワークショップのプランニングに役立てたい。</p> <p>③県内の他団体や学校関係者の参加もあり、今後の交流にも期待がもてる。</p>
課題	<p>運営を考慮すると、受講料をアップしたいところだが、現在の価格が限界であると感じている。では、受講者数を増やせばよいか、といえど多人数では良好なワークショップができない。その点が課題である。</p>

<人材養成事業3>

事業名	第1回俳優のための表現力養成講座
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
目的	<p>シアターで企画・制作・上演している「セロ弾きのゴーシュ」では、ベートーベンの「第六交響曲」の演奏が重要な役割を占めている。特に、ラストの演奏会シーンでは、オーケストラ団員役の俳優がそれぞれ自分の楽器を演奏するとともに、楽器の特徴を声で表現しながら、なお且つ4部合唱に仕上げ盛り上げなければならない。</p> <p>27年度は、相当量の練習を重ねて上演し好評を得たが、更に観客の感動を誘うためには、指導者による高い要求とそれに伴う練習が必要となる。そこで、2人の指導者を迎えて、作品のクオリティを高めたい。</p>
概要	<p>【実施日時】 齊藤浩氏（2回）平成28年4月9日～10日、7月16日～17日 田中禎子（7回）平成28年4月27日、5月27日、6月23日、 9月28日、10月27日、12月24日、2月15日</p> <p>【実施場所】 しいの実シアター</p> <p>【受講者数】 齊藤 浩氏 （2回）延べ28名 田中禎子氏 （7回）延べ32名</p> <p>【カリキュラム】 齊藤 浩氏 合唱表現指導、エア楽器演奏手法指導 田中禎子氏 身体訓練指導</p>
成果	<p>【事業の成果】</p> <p>①齊藤浩氏からは、「第六交響曲」の合唱力を高めるには、いわゆる音楽集団の合唱発声ではなく、演劇作品に貫通しているテーマを演劇人としてどう表現するか、そのためにはどのような呼吸方法がふさわしいのか、楽手役全員が統一性のある合唱を披露するにはどうすれば良いか、などを学んだ。これにより、俳優一人一人が歌に対する自信が増した。また、エア楽器の演奏手法も学ぶことができた。</p> <p>②田中禎子氏からは、俳優一人一人に対して身体的特徴を指摘してもらい、各自に合った訓練方法を教わり、日々の練習に活かすことができた。</p> <p>③2名の講師による「俳優のための表現力養成講座」によって、28年度の「セロ弾きのゴーシュ」公演は、前回の「ゴーシュ」公演を上回る技術とこなれた演技によって、ステージ毎に観客の感動と満足度が高まっていった。楽手と楽長の合唱の確かさ、ねこ、カッコウ、子だぬき、野ねずみの動物的動き、さらには、ゴーシュ役の演奏力の進歩は、作品全体のクオリティを高め、しいの実シアターの宝へと近づいていっている。</p>
課題	29年度の再演時に音楽を全て創り変えることにしているが、これにより、この作品は、完成されていくはずだ。

<人材養成事業4>

事業名	第1回ボランティア・クルーの人材養成事業
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
趣旨・目的	<p>「しいの実シアター」及び「松江・森の演劇祭(旧称:八雲国際演劇祭)」のボランティア・クルーは、16年にわたって様々な体験を重ねて企画・運営のスキルアップを実践してきた。その成果は、多数の他団体視察受入れに表れているが、今後は、理論的にも専門知識を蓄えて、新人及び中堅ボランティアを養成できるコーディネーション力アップを目指す。その中で優秀な人材を平成32年度の「松江・森の演劇祭」からプロとして活用する。この事業は継続開催して、他都市から講師を迎えなくても地元の人材から専門的に学べるような仕組みを創っていく。</p>
概要	<p>【実施日時】 ①NPO 法人 ala クルーズ 平成28年7月23日(土)～24日(日) ②日本ボランティアコーディネーター協会 平成28年12月4日(1回)</p> <p>【実施場所】 ①可児市文化創造センター(岐阜県可児市) ②しいの実シアター</p> <p>【対象者】 「しいの実シアター」「松江・森の演劇祭」で継続的にボランティア体験をした人の中からプロ化を目指す人及び運営本部スタッフ</p> <p>【参加者】 9名</p> <p>【講師】 ①NPO 法人 ala クルーズ担当者 ②日本ボランティアコーディネーター協会 池田幸也氏</p> <p>【カリキュラム】 ①フロントスタッフ事業、自主的な事業の企画・運営、広報事業、研修・交流事業の詳細について、具体的な方策等を学ぶ。 ②「そもそもボランティアとは」といった初級編から中級編の学び。</p>
成果	<p>① NPO 法人 ala クルーズでは、両者のボランティア関係者が会して情報交換を行った。双方の活動内容、活動の方向性、お客様への接し方などが大きく相違しており、全てが参考にできる、ということにはならなかった。それは、劇場の大きさ、劇場周辺の環境の違いなどが大きく影響していることが判明し、こういう学びも実際に訪問してみないとわからないことであった。alaの衛紀生館長の歓迎を受けて講話を聴く機会を得た。衛館長が話されるalaの劇場運営の精神は、訪問したボランティア・クルーに大きな刺激を与えた。劇場規模・環境の違いはあるものの、劇場が地域の人々の暮らしにとってなくてはならないものという社会的包摂の精神はクルーの胸に強く響いたようだ。これは、今回の最大の成果だった。</p> <p>②日本ボランティアコーディネーター協会・池田幸也氏を迎えて開催した講座は、大変わかりやすく参加者全員が理解でき、ボランティア活動の初級編をマスターすることができた。</p>
課題	<p>「百聞は一見に如かず」で、実際に現場に出掛けてみることの価値は非常に大きいですが、費用の面で、度々実施することは難しい。</p>

<人材養成事業5>

事業名	大学等との連携
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
目的	<p>①インターンシップの実施 シアターの年齢別来場者の中で最も割合の低いのは20代である。この世代が劇場業務や芸術活動等を学ぶことで、劇場や芸術により高い関心を持つことができる。今後の劇場関係者や演劇鑑賞者の増加を図り、しいの実シアターの活動を広める。</p> <p>②講師等の派遣 山陰5大学（島根大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学、島根県立大学、島根県立大学短期大学部）では、地域の人材ニーズに応じていくために、地域社会をフィールドにした「ソーシャルラーニング」を展開している。この中で、島根県立大学短期大学部は、就職後3年未満の離職率が高いことに悩んでおり、その原因はコミュニケーション力の低下にあるとして指導依頼があった。5年計画の5年目事業。</p>
概要	<p>①インターンシップの実施 【講師】園山土筆、有田美由樹、前村晴奈 【内容】5～6日間受入れ、劇場業務、創作現場、指定管理業務の体験 【対象】松江工業高等専門学校 1名 （愛媛）松山大学 1名 島根県立隠岐島前高等学校 1名 平成28年8月16日～19日、9月17日～18日（5日間） 平成28年8月15日～20日（6日間） 平成29年3月2日～6日（5日間） しいの実シアター（3回） 【カリキュラム】 劇場運営やアートマネジメントに興味を持っている大学生・高校生を受入れ、5～6日間、劇場の業務を体験。期間中は講師と学生の間で意見交換を行った。</p> <p>②講師等の派遣 【講師】園山土筆、有田美由樹、前村晴奈 【内容】社会に出て役立つ社会人育成を主目的に、ゲーム体験を通してコミュニケーションの基本を学生自らが気づく学びを提供する。 【対象】前期講座 保育学科1年 健康栄養学科1年 平成28年4月～7月 毎週月曜日（計13回） 総時間数：52時間 延べ300名 【会場】島根県立大学短期大学部 体育館アリーナ 【カリキュラム】 社会での「就業力」育成の準備段階として、対人関係を構築するためにワークショップを実施。初回は全員参加のオリエンテーションとワークショップ体験。2回目からは20名ずつで3グループをつくり、インプロゲームと振り返りを体験した。毎回、課題への取組と、自分自身の変化についての振り返りを実施することにより、キャリア形成に必要な自己表現力、コミュニケーション力を身につける。</p>

成果	<p>①インターンシップの実施 毎年必ず応募があり、真摯に劇場の仕事に興味・関心を持ち、積極的に関わってくれるようになってきた。今回の応募者2名は自ら主体的に動き、劇場スタッフとして充分活動できるのではないかという印象を受けた。こういった学生が29年度に開催する「松江・森の演劇祭」にボランティア参加し、他の若いメンバーとの交流によって、更に劇場への関心を深めていってくれることを願っている。</p> <p>②講師等の派遣 選択科目で60名の希望者を20名ずつに分け、即興性のある様々なゲームを体験し、振り返りを行なう。これを繰り返すことで、それぞれ個性のある自主的な発言が増え、他者の意見に耳を傾け、他の考えを受け入れたり、折り合いをつけたりすることができるようになってきた。</p>
課題	島根県立大学の前期講座は、講義の時間だけでなく、その準備、打合せ、プログラムづくり等にもかなりの時間をとられる。これについては、文化庁の補助で代替えのアルバイトを雇用する手当ては出るが、講師の業務サポートにはならない。

<普及啓発事業1>

事業名	学校公演「ゼロ弾きのゴーシュ」
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
目的	近年、学校公演を依頼されることは皆無となった。学校の芸術鑑賞予算が無くなったことが主な原因と言われおり、社会人になるまで1度も観劇経験を持っていない人の多さに驚くことがある。こういった状況を打開するため、学校公演実施を熟考してきたが、27年度、28年度に「ゼロ弾きのゴーシュ」が具象から抽象に向かい舞台装置が無くなったことによって、安価公演が可能となったので実行に移す。
概要	【実施日時】平成29年2月2日（木） 【実施場所】島根県大田市立久手小学校（島根県大田市久手町） 【実施回数】公演1回350名、園山土筆による事前学習1回41名、読み聞かせ各3回 延べ960名
成果	地域住民の協力により久手小全児童を対象に読み聞かせを実施した。また、6年生には、「自然に教えられたゴーシュ」という授業を行った。この2つの事前学習により、観劇時の集中力には驚くほどのものがあり、観る力や感じ取る力などを大いに刺激することができた。また、全教員のほか、近在小規模校の児童、地域の人々も観劇し、子どもたちの反応と感性の深さに驚いていた。
課題	初めての学校体育館公演であったこと、厳寒期であったことにより、想像以上に経費を要した。学校との連携を図り、地域企業の助成金を得て、子どもたちの観劇料は無料とすることができたが、自助努力だけでは不足した。 松江市内の学校から、公演依頼がないのは何故か。

<普及啓発事業2>

事業名	永野むつみ講演会「今こそ、芸術の力を人育てに」
助成	文化庁 平成28年度 劇場・音楽堂等活性化事業
目的	<p>自然の中で日が暮れるまで遊ぶことのできた時代、家族が大勢で夕飯を食べることができた時代、大家族の中でお互いが気遣いをしながら生きてきた時代は、もう過去の話である。そうした時代では、日々の生活の中で感性や想像力、創造性が培われてきたので、それほどには芸術の必要性は高くなかったかもしれない。しかし、3～4歳でも人さし指だけで使えるスマートフォンが登場した現在では、子どもたちの人間的な成長には芸術の力が不可欠であることを伝えていかなければならない。</p> <p>講師の永野むつみ氏は、多種多様な人物を表現してきたため、様々な声を自由に発する女優である。講演の中でエピソードを語る時など、その場面を容易に想像させる再現力をもっており、講演会など聴いたことのない人でも時間が経つのも忘れて集中して聴くことができる。</p>
概要	<p>【実施日時】平成28年9月17日（土）</p> <p>【実施場所】平原会館</p> <p>【実施回数】講演1回</p> <p>【来場者数】31名</p> <p>【講師】永野むつみ（人形劇団ひばりあむ・代表・女優）</p> <p>ブーク人形劇アカデミー、町田市障がい者青年学級主事、人形劇団カラバスを経て、1988年片手遣いの専門劇団である人形劇団ひばりあむを設立。代表、人形劇俳優。とらまる人形劇研究所パペットアーク専任講師。絵本の会「むつみ塾」主宰。</p>
成果	<p>前回参加した受講者の口コミが広がり、参加者数は、31名となった。地域性や参加者の年齢等を考慮して、前回の内容を少し砕いた組立での講演をお願いした。女性の反応は勿論だが、今回は男性の感動・納得度が非常に高かった。子どもたちを“小さな人”と呼んで、一人ひとりの人格に敬意を払って活動をしている永野氏の講演は、聴く人の胸に響き、いつまでも心に残り、大人たちに対して、芸術の力が人育てに重要であることが明確に伝わった。IT環境の中で子育てに悩む親に対しての啓発事業としての効果は達成できた。</p>
課題	<p>この地域での講演事業では、無料で受講できるものがほとんどだが、それは、大きな企業や行政が予算を計上して、確実な集客を目指しているからでもある。しかし、しいの実シアター事業では常に有料で実施せざるを得ない状況だ。それでも大切なメッセージは何とかして届けたいと考えている。しいの実シアターの企画に対する反応が少しずつ広がっていることを実感している。</p>

<建物管理>

1. 劇場機能の刷新とメンテナンスの充実

27年度、照明バトン電動化が実現し、照明の吊りこみ作業が安全にスピーディーに行えるようになった。メンテナンスも毎年の予算計上が確保され、安心して使える環境が整った。もう一つの不安材料であった調光卓の劣化による交換は29年度に実施されることになったため、安心安全な管理運営が可能となった。

2. カフェ設置による親しみやすさの創出

日常のカフェ営業にはまだつながっていないが、近隣にはショップも自動販売機も無いため貸館時の運営は大変好評である。あしぶえの公演時には喫茶運営を業者委託し、飲み物やケーキ、菓子の販売を行い、観客に喜ばれている。出店者からは、「シアタースタッフの生き活きとした活動には好感が持てる」との感想があり、シアターの応援者になってもらえるケースが出てきている。

<樹木管理>

1. 樹木の保全管理と将来計画

13年前に苗を譲り受けたソメイヨシノが大きくなり、桜の見物者が多くなった。

秋の演劇祭にも楽しんでもらえるように、イロハモミジを7本植栽し、どれも元気に成長している。虫が入って枯れた杉の木は伐採し、近隣住宅へ被害が及ばないように対応した。

2. ボランティアとシアター職員による草刈の実施

春の草刈は、6月に八雲町内外のボランティアを募り、専属劇団員、法人のサポート会員と共に合計12名で行った。秋の草刈は、日数をかけて職員数名が行い、春・秋ともに刈った草の処理と仕上げを松浦造園（株）に依頼し、臨機応変な対応をしてもらっている。また、劇場周りの日常の草刈は、シアター職員と地域のアルバイトで実施しており、地域の人々や観客、来場者から「いつも気持ちがいい」と好評を得ている。

3. 落ち葉集めと堆肥化の実施

平成20年から始めた「落ち葉集め」はボランティアの親子参加が好評で、常企画となっている。今年度は、かつてないほどの落葉で、松浦造園（株）から大型コンテナを借用して12月11日に実施し、堆肥化に向けた作業を行った。

<28年度事業報告>かやぶき交流館の管理・運営事業

初めて指定管理業務を受けた1年目は松江市から「S」の評価を得た。

2年目の28年度も、目標であった施設全体を清潔にし、築120年の古民家のあたたかさを保ちながら快適な環境づくりをめざして運営した。

下表8事業を開催したが、かやぶき交流館はもとより、しいの実シアターにも来たことが無いという人たちを集客することができ、物販活動についても、地元産品のリピーターがあつて口コミで広がりを見せている。

28年度の主な活動内容

「山あいのレストラン」を開店

「松江・森の演劇祭」を拡大・発展させる為にも「かやぶき交流館」が重要な役割を果たすと考え、しいの実シアターで開催された「森の小さな演劇祭」と連携し、施設の囲炉裏、畳、縁側を活かしたボランティアによる「山あいのレストラン」を開き、昼食提供事業を実施。また、似顔絵コーナーを設置し食事以外の集客を図った。

「かやぶきのひな祭り」を開催

29年3月にはスタッフ所有の雛人形を持ち込んで飾り、「かやぶきのひなまつり」を開催し、喫茶・体験イベントを行い集客に努めた。

8事業の明細は以下のとおり。

<自主事業>

事業名	実施月日	従事者	入場者
趣味の活動事業	毎月第2土曜日		43名
森の小さな演劇祭 「山あいのレストラン」運営	H28/9/17(土)～19(日)		370名
似顔絵イベント	H28/9/17(土)～19(日)		40名
ガラスと洋服と彫金アクセサリー展	H28/10/8(土)～10(月)		268名
カラコルム絨毯展	H28/10/20(木)～24(月)		65名
来て！見て！やくも収穫祭	H28/11/13(日)		386名
かやぶきのひな祭り	H29/3/18(土)～20(月)		318名
物販活動	通年		251名

<施設管理>

かやぶき屋根の保全に努めた

一年を通し、週に2～3日囲炉裏を焚き屋根の保全に努めている。煙の匂いが懐かしいと喜ばれる来場者がいる一方、煙は苦手という人も増えてきているため来場者の少ないウィークデイに薪を焚くようにしている。

前年、修繕した内装が快適なやすらぎ空間だと来場者に好評で囲炉裏を焚く時は、煙が室内に入らぬ様、襖・障子を閉め施設保持に努めた。

建物・駐車場の景観保全に努めた

駐車場よりのアプローチ縁の竹の取替えが急務であったが、近隣の方の竹林伐採に伴い竹材料をもらい取替えを行なった。

建物、駐車場周囲の草刈、除草、庭の樹木剪定を適時行い景観保全に努めた結果、「よく手入れがされていて美しい」と、来場者に喜ばれている。

鯉のぼりイベントに協力

八雲町では4～5月、地元の「八雲ゆう人会」が中心となって日吉地区の意宇川に鯉のぼりを掲揚するイベント「八雲ゆう游こいのぼり」が開催される。昨年より町内の各施設、団体に鯉のぼりセットを提供し、各地域で鯉のぼりの掲揚協力を求めている。当施設も自費で、掲揚ポールを設置、掲揚した。他団体と連携をとることにより集客につなげることができている。

シアターの催事チラシで「かやぶき」のPRを

シアターで開催するあしぶえ公演のチラシ、ネットワークを活用して、「貸館利用」を多方面に広報した。その結果、松江市全体に少しずつ周知され始めている。前年度に比べ貸館利用件数は30%増となったが大きな催物がなく利用者数は3%減となった。

<主な利用者>

- ①将棋大会（松江市古志原）40名
- ②ママはぴパパはぴ親学体験会（松江市国屋町）29名
- ③こんにやく作りの会（松江市外内原町）39名
- ④あおのほし地球家族体験会（松江市浜乃木）60名
- ⑤はるもにあ草木染体験（松江市雑賀町）38名
- ⑥保育士採用2～5年目研修（松江市東津田町）56名
- ⑦恋活イベント「お茶LOVEコン」（出雲市今市町）29名
- ⑧しいの実シアター未来学校（松江市八雲町）69名
- ⑨しまね木造塾講習会（松江市堂形町）20名
- ⑩松江女子高校だんだんツアー（松江市西尾町）18名 ほか

<28 年度事業報告> 松江・森の演劇祭の運営に関わる事業

今年度は、下記の活動を行いました。

「森の小さな演劇祭」は、しいの実シアター事業のページに記載しています。

1. 記録誌によるPR活動と招へい劇団選定活動を実施

「第5回」の記録誌を、国内外に配付し、集客につなげるほか、地域企業等への支援協力の依頼を行いました。また、次回招聘劇団リサーチ活動を行うと共にフェスティバル・クルーのスキルアップのための研修・視察を行いました。

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
研修	岐阜県可児市ala(劇場)	H28/7/23~24	可児市文化創造センター	9名	—
研修	沖縄りっかりっかフェスティバル	H28/7/26~28	沖縄・那覇市	3名	—
視察	京都国際芸術祭 子どもとおとなの演劇 プレイ!パーク バカラクラウン「ぶすぶす」観劇	H28/10/22	ロームシアター京都	2名	—
視察	京都国際芸術祭 子どもとおとなの演劇 プレイ!パーク シアターリフレクション 「家へ帰ろう」観劇	H28/11/12	京都・呉竹文化センター	2名	—
視察	カンパニー間「ふたつのつばさ」	H28/12/10	神奈川県川崎アートセンター	3名	—
視察	新作人形劇「ねずみ女房」	H29/2/10	国立市芸術文化センター 小ホール	3名	—
視察	子ども伝統芸能フェスティバル	H29/2/26	江津市総合市民センター	1名	—

2. 寄付企業への返礼ワークショップの実施

		実施月日	実施場所	従事者	受益者
講師	松浦造園(株)社員ワークショップ	H28/6/11	平原会館	1名	32名

<28年度事業報告>

物 販 事 業

27年度から「物販事業」という名目で正式に始めたこの活動は、グッズや地域産品等を販売して法人の運営費を補うために開始し、収益増に努めました。

<28年度事業報告>

サ ポ ー ト 会 の 活 動

項 目	サポート月例会
月例会	【日時】 2016(平成28)年4月4日、6月6日、7月4日、8月22日、10月3日、11月7日 2017(平成29)年2月6日 いずれも月曜日 【会場】 しいの実シアター
研 修	岐阜県可児市文化創造センターへ視察に出掛けました。 【日時】 2016(平成28)年7月23日～24日

項 目	NPO会員親睦交流会のサポート
内 容	第11回総会終了後、親睦交流会を開催し、手づくり料理を提供してくださいました。
概 要	【日時】 2016(平成28)年5月15日(日) 【会場】 かやぶき交流館

項 目	「セロ弾きのゴーシュ」「森の小さな演劇祭2016」のサポート
内 容	受付、もぎり、当日券販売、場内案内、グッズ販売、駐車場誘導などをサポートしてください、成功裏に終了することができました。
概 要	【日時】 あしぶえ創立50周年記念公演「セロ弾きのゴーシュ」 2016(平成28)年9月18日、10月2日、16日、11月6日 (いずれも日曜日) 「森の小さな演劇祭2016」 2016(平成28)年9月15日(木)～19日(月・祝)

項 目	しいの実シアター草刈りのサポート
内 容	しいの実シアター敷地内の草刈りをサポートしていただきました。
概 要	【日時】 2016(平成28)年6月5日(日)

項 目	「落ち葉集め」エコ活動のサポート
内 容	敷地内の落ち葉を集めて、松浦造園(株)に回収してもらい、シアター樹木の施肥に活用する作業。サポート会、正会員、一般の方の協力を得て、毎年開催。
概 要	【日時】 2016(平成28)年12月11日(日) 15:00～16:00 / 17:00～20:00 作業後、ボランティアの皆さんにも声をかけて盛大に大忘年会を開催。